

令和6年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立雪谷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・1年生は、区や全国の平均正答率を上回った項目として「活用」「主体的に学習に取り組む態度」「記述」が挙げられ、知識を応用して解答する能力に成果が見られた。
- ・2年生は、地理的分野で目標値を上回ったが、歴史的分野では目標値を下回った。出題形式のうちでは記述問題の正答率が目標値を大きく上回った。
- ・3年生は、昨年度のスコアから大幅な向上が見られた。特に「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の分類において、目標値を大きく上回った。

(2) 課題

- ・1年生は、いずれの分類においても、すべての項目で目標値を下回った。区内の平均正答率を下回っている項目も存在する。
- ・2年生は、観点で見たときに知識・技能の観点で目標値を下回った。
- ・3年生は、出題形式としては、短答の正答率が目標値および全国平均を大きく下回った。記述問題も目標値に届かなかった。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	目標値との比較▽		
第2学年	前年との比較△ 目標値との比較△	前年との比較▽ 目標値との比較△ (第1学年時)	
第3学年	前年との比較△ 目標値との比較△	前年との比較▽ 目標値との比較▽ (第2学年時)	前年との比較▽ 目標値との比較△ (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区平均正答率を上回っている。目標値、全国平均正答率の両者から下回っている。	区の平均正答率と同スコアで、目標値、全国平均正答率の両者からも下回っている。	区・全国平均正答率の両者から上回っている。目標値より下回ったが最も近接した。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区平均正答率を上回っている。目標値、全国平均正答率のいずれも下回っている。	目標値、区・全国平均正答率のいずれも上回っている。	目標値、区・全国平均正答率のいずれも上回っている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値、全国平均正答率をわずかに上回り、区平均正答率を大きく上回る結果となった。	目標値、全国平均正答率、区平均正答率を上回る結果となった。	目標値、全国平均正答率、区平均正答率を上回る結果となった。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の平均正答率自体と同様に校内の平均正答率も低い。特に「我が国の政治」に関する正答率の低さが目立つ。この分野に限らず、定期考査で類似問題を複数回出題するなど、反復学習の意義を生徒に理解させ、意識づける。	全国の平均正答率、目標値のいずれも下回っている。特に近代史の時代の並び替え問題での正答率が著しく低い。時代間のつながりや因果関係を理解しやすくするための授業展開を心掛ける。	目標値を下回ったが、観点の中では最も近接した。社会科への前向きな姿勢を大切にしたい。実物教材の使用や、身体化を通じた学習を行って知識の定着を図るとともに、生徒の主体性を伸ばしていく。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値、全国平均正答率のいずれも下回っている。知識の確実な習得を図るために小テストの実施や学習アプリなどの活用を行う。また、グラフの読み取りなどを授業の中で取り組む中で抵抗感の軽減を目指す。	目標値、区・全国平均正答率のいずれも上回っている。特に記述式の設問で大きく上回っている。より向上させるために理解を表現する機会を引き続き設ける。	目標値、区・全国平均正答率のいずれも上回っている。教材や ICT 機器の活用などを通して、生徒の主体性を引き出す工夫を行っていく。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
短答形式の問題の正答率にやや難が見られる。単純に知識を問う問題であっても、選択問題でないだけで拒絶反応を示している生徒の存在がうかがえる。キータームを絞り込み、強調することで書くことへのハードルを低くしていく。	昨年度、当該学年の社会科の授業では、発問を増やし、解答を生徒自身が記述する授業形式を取り入れた。記述問題を中心とする「思考・判断・表現」観点の正答率の向上はその成果と言える。解答を作成し、さらに修正する能力を向上させるために、ワークの自己採点の指導などをより強化していく。	地理分野の授業で、学習する順番や方法を生徒が選択できる授業形式を取り入れた成果が正答率の大幅な向上に現れている。ただし、歴史分野における資料読み取りには改善の余地が見られる。資料を読み取るポイントを示しつつ、生徒自身の力で解答にたどり着く授業形態を工夫していく。